

(4)人間関係・地域コミュニティの希薄化

デジタル化の急速な進行などにより生活の利便性が向上しています。

その一方、直接その場で顔をあわせてコミュニケーションを行う機会の減少、単身世帯や共働き世帯の増加をはじめとする家族形態の変化などにより、地域社会における人々のつながりが希薄化しています。

自治会や子ども会の加入率減少のほか、長期的な社会経済情勢の停滞によって、ひきこもりなどの問題も顕在化しています。

それらの課題を解決するためには、人と人がつながる場や機会の創出が必要であり、生涯学習がその役割を担うことへの期待が高まっています。

(5)家族形態やこどもの教育・生活環境の変化

単身世帯や共働き世帯のさらなる増加、学校教育におけるGIGAスクール構想*推進など、家庭やこどもの教育・生活環境が変化しています。

「こどもまんなか社会」*の実現には、社会全体でこどもや若者の成長を見守り、支援する意識が必要であり、その意識を醸成する上で生涯学習の重要性が高まっています。

(6)ライフスタイルや価値観の多様化

外国にルーツを持つ市民は令和7年3月末時点で1,403人となっており、平成27年3月末時点の686人と比較して2倍以上増加しているほか、田舎暮らしへの関心の高まりによる移住者の増加など、地域内で様々な価値観を持った人々と共に暮らしていくことが当たり前の状態になりつつあります。

それぞれの人が多様な文化や習慣、価値観などを持っていることを前提とし、互いを地域社会の一員として認めあい、尊重していく多文化共生の視点を持って生涯学習を推進する必要性が高まっています。

(7)共生社会実現に向けた取組の必要性の高まり

将来の予測が困難な現代社会を生きていくためには、性別、年齢、言語や文化の違い、障がいの有無などに関わらず、誰もが共に認めあい、学びあう共生社会を実現することが求められています。

そのためには、社会的包摂*の観点から、一人ひとりのニーズに適した学びの機会を提供していく必要があります。

*GIGA スクール構想→Global and Innovation Gateway for All の略。児童生徒向けの1人1台の端末と通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想のこと。

*こどもまんなか社会→子どもたちにとって何が最もよいことなのかを常に考え、こどもに関する事項を中心に据えて優先的に取り組む社会。こどもまんなか社会の実現のためには、「こどもの参加」や「大人がこどもの意見を聴く」ことが重要である。

*社会的包摂→社会的に全体を包み込むこと。誰も排除されず、全員が社会に参画する機会を持つこと。

4. 丹波市における生涯学習の課題

(1)第1期計画の進捗状況から見える課題

①既存事業の見直し

- ・シニアカレッジなどの生涯学習事業において、参加者や事業内容の固定化が見られます。また、各種団体が実施する事業においても同様の傾向があるため、ニーズに応じて事業内容を見直すなどの工夫が必要です。
- ・こどもから大人までの各年代を対象とした事業を実施してきましたが、誰でも参加でき多世代が交流できる事業が必要です。
- ・市民の求めに応じて自治会などへ出向く出前講座をはじめ、多種多様な事業実施により生涯学習のきっかけづくりはできていますが、学んだ成果を他者や地域に還元する知識循環型生涯学習へと進める取組が必要です。
- ・生涯学習を実施する各種団体などにおいて、構成員の固定化や高齢化が見受けられるため、担い手となる人材の育成が必要です。

②わかりやすい情報発信

- ・生涯学習に関する情報を得るツールが年代やライフスタイルなどによって異なっているため、それぞれの対象に応じた情報発信に加え、外国にルーツを持つ市民や障がいのある人への言語面のサポートも必要です。
- ・生涯学習の場や人材に関するポータル機能*の充実が必要です。

③生涯学習関連施設の老朽化の進行

地域の生涯学習の拠点となる住民センターをはじめとした関連施設の老朽化がこの10年間でますます進行しており、計画的な改修などが必要になっています。

④外的要因による生涯学習推進の鈍化

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、行動計画（「丹波市まなびの里づくりプラン」）の策定や関連事業の評価・検証など、生涯学習推進本部の役割が十分に果たせない期間が生じました。

*ポータル機能→様々な情報を集約・発信する機能。複数の場所を経由せずとも、そこで得たい情報が手に入る機能。

(2)市民意識調査から見える課題

①生涯学習の意義や必要性に関する周知・啓発

1年のうち月に1日以上生涯学習を行っていない人の割合が約3割となっており、そのうち「学習する必要性がない」という回答が4割を超えています。

生涯学習の概念そのものが浸透しておらず、意義や必要性が十分認識されていない状況が見受けられます。

②学習者の多様な背景やニーズへの対応

- ・「仕事が忙しい」という回答が依然として多く、学びに費やす時間の確保が課題となっています。

- ・「費用がかかる」という回答が前回より増加しており、社会・経済的背景によって学びが制限されている現状が見受けられます。

- ・「身近なところに施設や場所がない」「希望するような学習内容の講座がない」といった回答が前回より増加しており、講座の内容や実施方法など、多様化するニーズに対応しきれていない側面があります。

- ・こどもたちが地域に願うことについては、「楽しいイベントや祭りなどがある地域」が最も多くなっています。また、市や学校運営協議会が主催した地域の交流事業における感想からは、こどもも大人も様々な学びの発見があったことが読み取れます。

今後は世代を超えた対話や交流ができる機会が求められることも考えられます。

- ・生涯学習を進めるにあたり市に求めることについては、「各種講座やイベント情報のわかりやすい情報発信」が全年代共通して多く、情報の受け取り方についても幅広いニーズがあることが伺えます。

③人と人のつながりの希薄化

- ・「一緒に活動する仲間がいない」という回答が前回より増加しており、人々とのつながりの希薄化が見受けられます。

仲間がいないことで、学びへのきっかけがつかみづらくなる、学び始めても途中で諦めてしまうなど、学びから遠ざかってしまうことも考えられます。

- ・学習成果を地域・社会にいかそうとする割合は全年代ともに低く、学びが自分の中だけで完結されている傾向が見受けられます。

④学びを支える人材の育成

「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進していくためのコーディネーター人材が求められている一方、地域コミュニティ活動推進員、地域学校協働活動推進員、社会教育士などの人材の存在や役割が十分に認識されていない状況にあることが伺えます。

第4章 基本施策の推進

基本方針1. 誰もが楽しみながら学ぶことができるきっかけづくり

【キーワード】 楽しく学ぶ

誰もが楽しみながら学ぶ場があることが市民一人ひとりの自己実現や生活の充実につながります。

「学びたい」という気持ちを気軽に行動に移せるよう、多様なニーズに応じた学びの場づくりや情報発信、生涯学習関連施設の整備などに取り組みます。

【基本施策】

①様々なニーズに応じた楽しい学びの場づくり

年齢、性別、言語や文化の違い、障がいの有無などに関わらず、それぞれの生涯学習を楽しく行うことができるよう、ニーズに合わせた学習プログラムを提供し、スポーツ・文化芸術・ボランティア活動など、様々な形の学びの場づくりを推進します。

取組のイメージ：各種出前講座、ふれあいスポーツの集い、歴史講座、化石発掘体験 等

②こどもも大人も心置きなく対話できる場づくり

多様な価値観に触れ、学びを広げられるよう、誰もが心置きなく対話できる場づくりを行います。

取組のイメージ：青少年育成事業、子育て学習センター事業、アートサロン事業 等

③学びの機会や人材、団体についてのさらなる情報発信

学びや対話の場、生涯学習に関する人材、団体などの情報を簡単に得ることができ、参加しやすくなるように、対象者に合わせた情報発信や情報の一元化を推進します。

取組のイメージ：市民プラザのホームページや情報誌での発信、各種企画展の開催、
(一社)丹波市スポーツ協会からの情報発信 等